



# 九条の会. ひがしなだ ニュース

第43号

2013年8月

事務局 中村陽一 Tel&Fax 811-4562 E-mail [youichi-nakamura@kcc.zaq.ne.jp](mailto:youichi-nakamura@kcc.zaq.ne.jp)

## 九条の会. ひがしなだ 8月特別企画 「被爆の実相」 ～ヒロシマを今、自分のことばで～ 語り部 : 竹本成徳さん



竹本さんは、元コープこうべ理事長、元日本生協連会長で、現在は（財）ユニセフ協会兵庫県支部長を務めておられます。旧制中学2年の時、広島爆心地から1Kmの場所で被爆した体験を語って頂きました。会場の東灘区民センター多目的ホールには、80人の参加があり、IWJのインターネット中継も行われました。1931年（昭和6年）生まれの竹本さんのお話は、82歳との年齢を感じさせない臨場感のある語りで、「戦争という愚かなことは二度と繰り返してはならない」との強い思いが伝わってくるものでした。

昭和20年8月6日午前8時15分17秒、原子爆弾が投下されたその日、竹本さんは旧制中学の2年生150人で倒壊作業の動員を受けていました。先生から、「クラスのお弁当の番をしろ」との指示を受けて、みんなと別れて市役所の建物の西側の植え込みの陰でその瞬間を迎えました。「ピカードン！」ものすごい光と音がし、意識を失っていたそうです。この瞬間に、十数万人の命が奪われ、爆心地1Km以内では83%の人が亡くなりました。やけどひとつせず軌跡的に助かった竹本さんでしたが、ここから自宅に戻るまでの地獄のような情景をまるで紙芝居を見ているかを感じるほどリアルにお話されました。

自分のいる瓦礫の下から「助けてくれー！」と生きている人が助けをもとめてもどうすることもできなかった、そのことは今でも耳の奥に残っているそうです。二十歳の姉さんが、全身にやけどを負い頭に穴があいて瀕死の状態の中、父親が竹本さんにトマトを取りに行かせ、その覚悟を決めたことがわ

かったそうです（原爆の大やけどの後、水を飲ませると死んでしまうことを知っていたのです）。姉さんはトマトのジュースをおいしいと飲んで、息を引き取りました。この事を、著書「さいごのトマト ヒロシマを、わたしの自身の『ことば』で」に綴っておられます。被爆体験を次の世代に語り継ぐために、子ども達にも読めるように作られ、そして竹本さん自身小学校などで語り部としてご活躍です。戦争をしてはいけない、核戦争なんてとんでもないと訴えてお話を終えられました。貴重なお話を聞ける機会を作ってください感謝します。（藤末浩美）

## アンケートから

- 話に具体性、真実性がある、ひしひしと伝わってきました。次回はもう少し先生のご講演時間を増やして、詳しくお話頂きたいです。あと、先生のDVDを売ってほしいと思いました。
- 「語り」は実相が良く想像できて、非常によいものでした。生涯記憶にとどめられる話であった。
- 奇跡的に一命を取り留めた経験を具体的に聞かせて頂き、その基になった戦争を憎みます。私も満州から引き揚げてきましたが、その頃の大人の人達のご苦勞を今でも思います。
- 中学2年だったこと、ほとんど傷を受けなかったことで、本当に生々しく、具体的に詳しい状況を聞くことができ良かった。これからも語り継いで下さい。
- 原爆投下後の、阿鼻叫喚の地獄図が目に浮かぶ真柏の語りに加え、仕事で徹夜してそのまま出向いた疲れもあって、身体が震えるわ、涙腺が緩みっぱなしになるわ、で大変でした。（竹本さんのお話を聞きたくて大阪から来た男）
- 貞子の映画も見ました、広島にも三度行きました……永遠の課題です。戦争は2度としてはならないと思っています。
- 被爆体験は様々なところで聞いたが（久しぶりでした）、これほど真に迫ったものはありませんでした。
- 生々しい体験を聴かせて頂き、本当に有難うございました。語り部としての活動を、是非続けて頂きたいです。ひとりひとりが、次の世代へと、つなげていく活動を行って行きたいです。
- あらためて原爆の悲惨さを知りました。私は、核戦争の実態、核の暴力について、各国市民一人一人が本当に分かるという事の意味を、今日のお話を聞いて考えさせられました。私達は、未来に核の災いを残さぬよう努力しなければならない（原発の廃棄物処理も含めて）と、心より思いました。
- 実体験された話で感動しました。戦争を起こさせないために、今後とも一緒に努力して行きたい。
- こんなにリアリティに富んだ話は、初めてでした。
- 実体験ならではの言葉で、非常に良かった「。
- 最後の結論に感服致しました。
- 具体的で、分かりやすい説明でした。ありがとうございました。
- 感動的な話だった。



（中村陽一）

## 二度と戦争のない世を 沖縄・那覇の語り部 石原絹子さんの戦争体験を聞く



7月14日、新老人の会が沖縄・那覇の語り部石原絹子さんを招いて戦争体験を語りつく会を元町の聖ミカエル大聖堂で開催されたので、パンフの普及もあわせて参加しました。

石原絹子さんは、沖縄戦が始まった1944年当時小学1年生の6人家族で、防空壕生活をしていました。そこへ軍隊がやってきて、3歳以下の子供は戦争の邪魔になるから殺すか、防空壕から出ていけと脅され、1歳の妹を背負い3歳の妹の手を引いて、米軍の艦砲射撃、火炎放射器、迫撃砲、B29爆撃の中を逃げまどい、母・兄・妹すべてを亡くした経験を声を詰まらせながら話されました。

特に、1歳の妹が亡くなっていく状況は、聞いている私にも戦争の極限状況のすごまじさが生々しく実感できました。

「鬼畜米英」と恐れていた米軍の衛生兵に助け出され、その衛生兵の胸に揺れている十字架がその後の生きる支えになっていることを話されました。

特に印象深かった話の内容は、歴史から何を学ぶかということでした。

戦争は、だますものとだまされる者がいないと起こらない。騙されたことを反省しないと国の内外に謝罪したことにはならない。と強調されました。

最後に、平和は向こうからやってこない。平和を守る取り組みが必要であり、日本国憲法を守る運動の大切さを強調されました。

私にとっては、沖縄戦の話聞くのは初めてでしたが、あまりにも衝撃でした。平和の大切さを実感し、憲法を守り発展させることの重要性を認識する1日でした。

(合田和義)

## 8月17日まで学童疎開スケッチ展 コープこうべ生活文化センターで

「宮地孝～学童疎開のスケッチ展」が、8月17日（土）まで、コープこうべ生活文化センター1階展示コーナーで開催されています（8月13～15日は休館）。

二紀会同人で、帝展にも入選し、厚生大臣賞なども受賞した画家・宮地孝（1907年～1991年）は戦時中、神戸の下山手国民学校（現山の手小学校＝中央区中山手通り）の図画の先生をしていました。1944年から45年にかけて疎開先を訪問し、児童の生活を描いたスケッチ似顔絵などを数多く残しています。



コープこうべの西保昇センター長が、スケッチなど 27 点を託された経緯や兵庫での学童疎開の実態などを、「あいさつ」の中で丁寧に触れ、掲示しています（問い合わせは☎078・431・5273）。

鑑賞した神戸空襲を記録する会の米倉澄子さんは「すべてあの通りで、私の体験と全く同じ。今後の語り部活動にも生かしていきたい」と語っていました。

なお、別件ですが、8月15日（木）10時からの大倉山での神戸空襲犠牲者慰霊碑の除幕式には、すでに680人以上の参加申し込みがあり、当日は相当な混雑が想定されることから、「早めの来場を」と、米倉さんは呼び掛けています。（田所明治）

## 「兵庫の平和史跡ガイド」を刊行 平和憲法を守り、普及にご協力を

「兵庫の平和史跡ガイド〈戦争遺跡は語る〉」が8月2日、日本機関紙出版センターから、刊行されました。

「今、見ることのできる平和史跡 160カ所を完全ガイド!」と銘打って、戦争遺跡のほか、平和資料館や強制連行などの歴史的事実も加えて、カラー写真と詳細解説、地図付きで紹介しています。A5判、122ページで定価 1575 円 [税込]。

兵庫の「語り継ごう戦争」展の会、兵庫歴史教育者協議会などに、各地の有志が協力して執筆、完成させたものです。東灘区では赤（朱）鳥居、深江の神戸生活文化史料館、神戸大学海事博物館、芦屋では日中友好平和之塔、戦災クスノキなどが、1ページを割いて紹介されています。

歴史認識が問われている今、平和憲法を守るためにも、みんなで普及に取り組みましょう（特別割引あり）。

希望者は田所（090・3683・4171）まで。

**2013年8月、待望の1冊、ついに刊行へ!**



兵庫の「語りつごう戦争」展の会  
兵庫歴史教育者協議会  
【執筆者】福次真、岩本賢治、上野祐一良、大木久、菊本隆人、桐原直人、高橋正明、田所明治、戸崎晋太郎、原田修一、本田芳幸、水田全一、山内英正

【掲載エリア】

1. 淡路島の平和史跡
2. 宝塚・伊丹の平和史跡
3. 尼崎・西宮の平和史跡
4. 芦屋・神戸東部の平和史跡
5. 神戸中部の平和史跡
6. 神戸西部の平和史跡
7. 明石・三木・加西・小野の平和史跡
8. 加古川・高砂の平和史跡
9. 姫路の平和史跡
10. 兵庫の平和資料館

今、見ることのできる平和史跡160カ所を完全ガイド!

兵庫の平和史跡ガイド

戦争遺跡は語る

平和資料館、平和モニメント、飛行場跡、地下壕、造兵廠跡、砲台跡、兵舎跡、弾薬庫跡、軍事工場跡、機銃掃射弾痕、少年兵墓、戦災樹木、空襲犠牲者慰霊碑・塔、忠魂碑、強制連行などをカラー写真と詳細解説、地図入りで紹介!

- 定価1575円(税込)
- A5判122ページ カラー
- ISBN9784889008883
- 8月2日以降発売

発行・発売 日本機関紙出版センター  
 〒553-0006 大阪市福島区吉野3-2-35  
 TEL: 06-6456-1254 FAX: 06-6465-1255

お申し込みは【兵庫の「語りつごう戦争」展の会】  
**FAX:078-577-7651 TEL:090-5896-6048 郵便振替:01170-7-11936**

申	兵庫の平和史跡ガイド [戦争遺跡は語る] ( ) 冊、注文します	
込	お名前・団体名	
書	お届け先 〒	電話

## 9条の会訪問記（その19） 東神戸医療互助組合兵庫支部「9条の会」 「急がず、休まず」の精神で 「アピール署名」集めて442筆まで

今年6月2日（日）に開催されました東神戸医療互助組合の総代会で、兵庫支部「9条の会」の活動状況が金場俊雄支部長から報告されました。「平和あつての医療。互助組合 60周年には、14支部すべての地元で9条の会を結成し、平和憲法を守りぬこう」と、呼びかけられたのが、とても印象的。これを受けて、さっそく「訪問」を打診しましたところ、7月22日（月）、「定例の互助組合理事会の前に1時間ほど」ということになり、夕刻、東灘区の互助組合本部でのインタビュー、ということになりました。

したがって今回は、訪問記というよりも、正確に言えば、出先でのインタビュー。事前にしっかり準備された、発足以来の資料をもとに、漁島国広理事長と金場俊雄兵庫支部長が、こもごも説明されたお

4

話を総合しますと、兵庫支部「9条の会」の結成は、2007年8月4日、第1次安倍内閣の時、今と同じく「憲法の危機」が叫ばれていました。

実は、兵庫区には民医連の病院、診療所などが無く、互助組合兵庫支部が530世帯で結成されたのが2006年10月7日。活動方針の重要な柱に「平和」を掲げ、その勢いで、「9条の会」も翌年に結成、といった流れのようです。呼びかけ人は、運営委員の14名。

作家の大江健三郎さんら著名9氏が発表した「九条の会アピール」の賛同署名を集めて回り、賛同者は今年7月で442人に達しています。署名は組合員訪問や健康まつり、青空チェックの会場などのほか、ノボリを立てて街頭でも集め、2011年11月には独自の“原発ゼロへ”宣言も発しています。

「急がず、休まず」の精神で歩み続けて、今年8月で6周年。この6周年を、どう迎えるかが、当面の焦点となっています。

(田所明治)



「3周年のつどい」に集まって（2010年10月2日）

## これからの催し物

### ★★★☆☆ 9月8（日） 14：00～

#### 芦屋「九条の会」憲法学習会

主催：芦屋「九条の会」

会場：芦屋市民活動センター（リードあしや）2階ホール

JR芦屋駅南口から南西へ徒歩8分、阪神芦屋駅東改札口から北へ徒歩4分

阪急芦屋川駅を芦屋川沿いに南へ徒歩8分

講師：上脇博之氏（神戸学院大学法科大学院教授）

資料代：500円（高校生以下無料）

連絡先：片岡(090-7118-2312)

### ★★★☆☆ 9月15（日） 14：00～

#### 宝塚九条の会 8周年総会 & 記念集会

主催：宝塚屋九条の会

会場：宝塚西公民館ホール

第1部・総会（約1時間）

第2部・記念集会

①文化行事＝オーボエ演奏（渡邊悦朗さん・宝塚歌劇団オーボエ奏者）

②記念講演＝「平和憲法と自民党改憲草案」（杉島幸生弁護士）

以上